myfaシリーズ

リヒト店頭陳列コンクール

グランプリ カワチあべのHoop店

グランプリのカワチあべのHoop店

株式会社LIHIT LAB.（田中宏和社長、大阪市）は、6月1日～7月31日まで第13回L－1グランプリ「myfa（ミファ）シリーズ店頭陳列コンテスト」を実施していたが、このほど結果を発表した。

グランプリ＝カワチあべのHoop店（大阪市）。

【準グランプリ】文教堂書店札幌ルーシー店（北海道札幌市）、文教堂書店平岸店（北海道札幌市）。

【優秀賞】インク清水町・卸団地店（静岡県駿東郡）、うさぎや倉敷店（岡山県倉敷市）、ABCクラフトあべのキューズモール店（大阪市）、カメヤBOOK宇土シティ店（熊本県宇土市）、雑貨館インキューブ天神店（福岡市）、シモジマ浅草橋本店（東京都台東区）、ジュンク堂書店池袋本店（東京都豊島区）、ステーショナリーランド・サルサ神戸北店（神戸市）、タワーレコード梅田NU茶屋町店（大阪市）、タワーレコード渋谷店（東京都渋谷区）、TSUTAYA木野店（北海道河東郡）、ナガサワ文具センター本店（神戸市）、株式会社浜書房港南台バーズ店（横浜市）、文教堂書店王寺店（奈良県北葛城郡）、文教堂書店熊谷駅店（埼玉県熊谷市）、文教堂書店新札幌DUO店（札幌市）、文具のしんぷく本店（鹿児島市）、文具用品店かがし屋中津店（大分県中津市）。（敬称略、50音順）。

作家とコラボ絵墨も

墨運堂が「墨の彩」に協賛

株式会社墨運堂（松井昭光社長、奈良市）が協賛、アーティストの岬ましろさんが主催する、墨で彩る作品展「墨の彩」が10月19～27日、奈良市樽井町の「ギャラリー天平ならまち」で開催、会期中多くの来場者で賑わった。

今年で3回目となる同展は墨をテーマにした7人の作家が出展、作家それぞれの趣のある豊かな表現の作品が展示され、作品と共に制作に用いた画材が紹介された。

入り口の商品展示コーナーにはSNSで広がりを見せている「絵墨」シリーズ、日本の伝統色を濃淡幅広い表現ができる「彩墨あや」、墨液「玄宗」シリーズを中心に紹介。試筆体験では、「あや」の全18色の試し書きを用意、来場者から好評を得た。

「絵墨」は創業以来培った墨づくりの技術をもとに低明度から高明度まで表現する独自の絵具として誕生した描画材で、水彩やイラストなど、幅広く使用されている。今回は制作に絵墨を使用する作家2人が色を選定したコラボ商品を限定販売、人気を博した。

「彩墨 あや」は色重ねもできて、幅広い濃淡表現ができる絵具墨。平安時代の襲（かさね）の色から18色を展開。専用の画陶硯（白）を用意。

作家とコラボした絵墨

グランプリなど決定

シャチハタデザインコンペ表彰式

シャチハタ株式会社（舟橋正剛社長、名古屋市）は、新しいプロダクトのデザインを募る「17th SHACHIHATA New Product Design Competition（シャチハタ・ニュープロダクト・デザイン・コンペティション）」の表彰式を、10月11日に開催した。

今回は、過去最多となる応募作品1538点より厳正な審査のもと選ばれた、受賞作品全9点を発表し、表彰を行った。

また、幅広いジャンルでデザインの発展を牽引し続けている審査員の中村勇吾氏、原研哉氏、深澤直人氏、三澤遥氏、ゲスト審査員の岡崎智弘氏、モデレーターとしてデザインライターの角尾舞氏が登壇し、審査講評やトークショーを行った。受賞作品は次の通り。敬称略。

グランプリ＝「めでたいん！」（榎本千紘）

グランプリ受賞作品

準グランプリ＝「なかみのそとみ」（松本和也）

審査員賞（中村賞）＝「結束水引」（中道咲花）、審査員賞（原賞）＝「陰影折紙」（江上恵一郎／舟橋慶祐）、審査員賞（深澤賞）＝「touchable mark」（楠天童／楠麻耶（チーム名：KUSU－KUSU）。審査員賞（三澤賞「SKELETON」）＝東出和士。審査員賞（岡崎賞）＝「すみがくれ」（長谷川泰斗／山下采夏）。特別審査員賞＝「もじちょこ」（山本晄暉）。

保育業界に特化した商談会

サクラクレパスが出展

メッセフランクフルトジャパン株式会社（梶原靖志社長）は、11月21、22日、東京都立産業貿易センター浜松町館で、保育業界に特化したビジネス商談見本市「保育博」を開催する。

展示エリアには約170社が出展予定で、保育現場で役立つ商品やサービスの展示で構成されており、業界関連ではサクラクレパスが出展する。

今年は来場者の関心度が高い「ICT」と「食」を一堂に集めた新ゾーンを新設。保育業界の課題となっている人材不足を解決するために、保育博会場内に「求人エリア」を設ける。

また、セミナーや研修・ワークショップも併催。

2023年は3588人が来場。このうち50・6％が保育従事者および運営支援業者、行政関係者が占めた。

フエキ
http://www.fueki.co.jp/

壁画2作品を公開

アート・プロジェクトで

ぺんてる株式会社（和田優社長、東京都）が創業の地・日本橋からはじめるアート・プロジェクトの一環としてスタートした、世界で活躍する壁画アーティストを輩出するプロジェクト「Pentelミューラル ルーキーズプロジェクト」の壁画2作品が完成、10月4日より一般公開している。

今年6月に公募を開始した同プロジェクトには、総勢200人を超えるアーティストから応募が寄せられた。今回、選出された2人のアーティストは同社のアンバサダーとして、1年間画材の提供を受け、継続的な作品制作や製品開発へのフィードバックなど、同社のアートに関する活動に一緒に取り組む予定。

メイン画材には「スクールガッシュ」、下描き用のペンとして、水彩やイラストなど、幅広く使用されている。今回は制作に絵墨を使用する作家2人が色を選定したコラボ商品を限定販売、人気を博した。

「彩墨 あや」は色重ねもできて、幅広い濃淡表現ができる絵具墨。平安時代の襲（かさね）の色から18色を展開。専用の画陶硯（白）を用意。

壁画アートの制作風景

グループ6社が集結

11月28～30日 秋葉原でキングジムフェア

株式会社キングジム（木村美代子社長、東京都）は、11月28～30日、東京・秋葉原のベルサール秋葉原で、グループ6社（キングジム、ラドンナ、アスカ商会、ぽん家具、ウインセス、ライフオンプロダクツ）が一堂に集まる展示・販売イベント「キングジムフェア2024」を開催する。

同フェアは、キングジムのDNA「独創的なアイデア」を愛するファンへの感謝と、「もっとワクワクを届けたい」という思いをこめて開催するイベント。

会場では、ステーショナリーからライフスタイル用品、アーティフィシャルフラワーなど、グループの多様な商品を展示・販売する。このほか、SNSやテレビで話題になった商品を集めたコーナーや、Xの中の人（姉）とコミュニケーションが取れるメッセージボードコーナーなどが楽しめる様々なコンテンツを用意している。

防災訓練とボウリング大会

紙文具流通センター

協同組合大阪紙文具流通センター（堀隆理事長）は、10月17日に防災訓練を行った。

当日は34人が参加し、東大阪市消防局西消防署が初期消火・AED取扱い訓練、東大阪市危機管理室が地震・風水害の防災講演会を担当した。

初期消火訓練では参加者が水消火器を体験し、AED取扱い訓練ではダミー人形を使った胸骨圧迫とAEDの取扱い方法を学んだ。

防災講演会では東大阪市が想定している災害被害と避難所に準備している簡易テント、簡易トイレの紹介と使用方法の説明を受けた。

また、10月18日にX－BOWLで「第35回親睦ボウリング大会」を開催した。

当日は、92人（男性67人、女性25人）が参加、競技は1チーム4人の団体戦と男女別の個人戦で争われ、日頃の腕を競った。

ヤマトが糊の技術を紹介

接着・接合EXPO

ヤマト株式会社（長谷川豊社長、東京都）は、用途開発などの新たな分野開拓を目指し、10月29～31日に千葉市の幕張メッセで開催された高機能素材Weekの専門展「第8回接着・接合EXPO」に初出展した。

ブースでは、液状のり「アラビックヤマト」などの糊の技術を中心に、自動車産業、製紙産業、エレクロニクス産業、原子力産業など幅広い分野で採用されている高度な接着・粘着技術を紹介した。また、相談のコーナーも設けて、新製品開発やOEM・PB開発のニーズを収集した。

ヤマトのブース

クリエイターズスパイラル奈良

過去上回る来場者

奈良デザイン協会が主催、奈良コンベンションセンターが共催する、クリエイターとクライアントがマッチングするBtoBの展示会「クリエイターズスパイラル奈良2024」（クリスパ奈良）が10月11、12日、奈良市三条大路の奈良県コンベンションセンターで開催、過去2回を上回る多数の来場者で賑わった。

今回で第3回目となる同展は、様々な分野で活躍するクリエイター21人が墨アートや筆文字、ぬいぐるみオーダーメイド、推し活バッグ、ナノ粒子の金めっき技法で制作した置物など伝統から最先端の技術や作品を紹介。

会場には奈良の伝統工芸作家が講師になり、奈良筆づくり、奈良一刀彫り、赤膚焼の皿づくりなどが体験できるコーナーも設けた。

多数の来場で賑わう

石田潔氏

株式会社グリーンベル創業者・相談役）は、10月15日に逝去した。享年91歳。

通夜ならびに葬儀は、故人の遺志により近親者のみで執り行われた。

故・石田潔氏は、1933年（昭和8年）2月16日に大手剃刀メーカー社長の6人兄弟の四男として大阪府箕面市で生まれ、父の仕事の関係で幼少期に岐阜市へ転居、岐阜県立岐阜商業高等学校を卒業後、繊維問屋や実兄が経営する金物会社で営業経験を積み、1968年（昭和43年）大阪の地に装粧刃物雑貨の製造販売を業とする株式会社グリーンベルを設立。高級爪切り「匠の技」シリーズの原点となったステンレス製ブレードの爪切りの開発、高品質の製品の魅力を海外市場にアピールして販路を広げるなど事業発展の礎を築いた。

本葬として来春にお別れの会を予定している。

訂正 10月15日付「防災用品特集」面の、ライオン事務器が取り扱いを開始したポータブルバッテリー「ポポフ」の製造元名が「シーテックス社」とあるのは、「シーテック社」の誤りでした。訂正してお詫びします。

不易糊工業 鈴木勝也氏の社長就任祝う

末星会が例会開催

京阪神を中心に小売、卸、メーカーの後継者で組織する末星会の例会が、10月15日午後6時から大阪・上本町の焼肉問屋いちよしで開催した。

当日は15人が参加し、西村友秀氏（銀鳥産業）の開会挨拶の後、水谷豊氏（あかしや）より6月に新社長に就任した鈴木勝也氏（不易糊工業）を紹介、記念品を贈呈して祝い、続いて乾杯の音頭をとって開宴した。

宴中、文具ソムリエ・石津大氏が活動の近況報告を行い、「文具業界発展のため、各メディアに魅力の文房具を積極的に紹介していきたい」と抱負を述べ、情報交換を行いながら賑やかに歓談、親睦を深めた。

最後に、塚田征司氏（ミツヤ）の手締めで例会を閉じた。

15人が参加した末星会例会